

(別添2)

No.	2
策定年月	令和3年4月
見直し年月	-

麦・大豆産地生産性向上計画 矢巾地域 (作成主体: 矢巾町農業再生支援協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

矢巾町は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約7割を占める水田地域である。近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が進む状況を踏まえ、作業を効率化した生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需者と密接に連携し需要が拡大基調である品種へ生産を移行していくとともに、耐病性品種等への切り替えを実需者の理解を得ながら進めることにより、単収の安定を実現する。

現在、矢巾町においては、水田フル活用ビジョン、転換作物拡大計画により、作物ごとの取組方針の作成や作付予定面積等を設定し、課題解決に向け、産地交付金等を活用して取組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・小麦については、本地域で生産している品種の「ゆきちから」817トン、全量がパン及び麺類の加工用として、県内の製粉企業に販売されているが、近年はより赤かび病による品質低下、それに安定供給が課題となっており、赤かび病に対する抵抗性が強く、より食感の良い低アミロースで加工適性の高い品種をパン加工事業者から求められている。

・大豆については、生産の多くを占める品種の「シュウリュウ」157トン、豆腐の加工用として農協経由で全農へ販売されているほか、矢巾町学校給食共同調理場等に味噌及び豆腐用として販売されているが、需要量に対する安定供給が達成できていないことから、安定供給可能な品種の選定を含めて、県全体の方針と連携を図りつつ行う必要がある。

(2) 生産における現状と課題

近年、小麦の作付面積は減少傾向、大豆は横ばいで推移しており、単収は年度毎にバラつきがあるものの長期的には低下傾向となっている。

単収低下の要因としては、近年担い手への農地の集約が進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしており、スマート農業の導入や作付の団地化等の推進が必要となっている。

団地化率は、現状において小麦が7.0%で微増傾向、大豆が5.7%で横ばい傾向となっており、計画的な団地化による改善が課題となっている。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	ゆきちから	(372) 372	(337) 337	(313) 313	(174) 174	(286) 286	(261) 261	(647) 647	(964) 964	(817) 817
大麦										
作物計		(372) 372	(337) 337	(313) 313	(174) 174	(286) 286	(261) 261	(647) 647	(964) 964	(817) 817

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆	シュウリュウ	(46) 46	(69) 69	(87) 87	(210) 210	(194) 194	(180) 180	(97) 97	(134) 134	(157) 157
作物計		(46) 46	(69) 69	(87) 87	(210) 210	(194) 194	(180) 180	(97) 97	(134) 134	(157) 157

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	ゆきちから	22	5.9%	22	6.5%	22	7.0%	
大麦								
作物計		22	5.9%	22	6.5%	22	7.0%	

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	シュウリュウ	4	8.7%	4	5.8%	5	5.7%	
作物計		4	8.7%	4	5.8%	5	5.7%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

岩手県においては、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としており、当該地域においてもこれに準じて団地化率を算出する。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。